

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立沼田西小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	48.6	49.9	52	52.1	50.7
	本年度結果 偏差値平均	55	49.5	48.2	51.2	54.7	51.5
算数	前年度結果 偏差値平均	/	58.4	58.1	58.1	55.8	57.6
	本年度結果 偏差値平均	55.9	59.3	60.4	52.7	56.7	57.4
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	49.7	53	51.3
	本年度結果 偏差値平均	/	/	51.9	48.7	51.6	50.9
全体	前年度結果 偏差値平均	/	53.5	54	53.3	53.9	53.6
	本年度結果 偏差値平均	55.5	54.4	53.5	50.9	54.4	53.8

②全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	62 (92)	60 (93)
本年度結果 (対県比)	73 (105)	72 (112)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語では、話すこと(全国比87)、読むこと(全国比98)、中学年書くこと(全国比86)の領域に課題があった。 ●算数では、ほとんど全ての項目が全国比100以上の数値だったが、5年生のデータの活用(全国比99)の領域に課題があった。 ●理科では、太陽と地面の様子(全国比99)、天気・雨水と地面・月と星(全国比94)、電流の働き(全国比93)、空気・水・金属の性質と温度(全国比93)、電磁石・振り子の運動(全国比99)、物の溶け方(全国比99)の領域に課題があった。 	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語では、書くこと(正答率21.4%)に課題があった。特に図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや文章と図表などと結び付けたり情報と情報を関係付けたりすること、漢字の変換に課題があった。 ●算数では、図形領域(正答率60.7%)に課題があった。特に正三角形の意味や性質、底辺と面積の関係を基に面積の大小の理由を言葉や数を用いて記述することに課題があった。
<p>【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「拡散した学級集団」が1学級、「学級内の規律と人間関係が不安定」が2学級あった。 ●Q-Uにおける三次支援を必要とする児童が学校全体で4人いる。 ●学習意欲が全国比よりも低い学級が2学級あった。 	<p>【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「拡散した学級集団」が1学級あった。 ●Q-Uにおける三次支援を必要とする児童が学校全体で2人いる。 ●学習意欲が全国比よりも低い学級が1学級あった。

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

(※毎月のブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介させていただきます。)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全学級で問い返し発問の目的を明確にした授業を実施する。 ②全教諭が学び合いを深めるために、児童の呟き、発言、動作、記述等の様々な表現に対して、他の児童にその意味や根拠、よさを問う発問をする。 ③全学級で児童の資質・能力の確実な定着及び向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①NRT・全国学力・学習状況調査の誤答分析による実態把握と改善計画の立案、苦手問題実施 ②管理職による授業参観の実施 ③「問い返し発問」に関わる校内研修の実施及び指導案作成、日々の授業実践 ④モジュールタイムでの基礎学力の定着に向け、NRT類似問題やアシストシート、全国学力・学習状況調査過去問題実施・解説 ⑤既習を整理した壁面掲示の充実(算数科を中心に) ⑥実感を伴った理解ができる指導(算数科での量感、操作、日常の事象を扱った適用問題、理科での実験など) ⑦モジュールタイムでは、学力に課題が見られる学年に複数対応で指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①6～8月、9月～12月 ②月に1回 ③1～2学期・毎日 ④月火木金 ⑤適宜 ⑥適宜 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員アンケート肯定回答100%(7月・12月) 「思考力を育成するために、問い返し発問の目的を明確にして発問をした。」 ②職員アンケート肯定回答80%(7・12月) 「学び合いを深めるために、児童の呟き、発言、動作、記述等の様々な表現に対して、他の児童にその意味や根拠、よさを問う発問をした。」 ③単元末・学期末テスト 学年平均通過率(全学級80%以上) Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国得点+1以上)
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全学級において、学習ルール、環境整備を徹底し、安心・安全な学級集団の醸成を図る。 ②いじめや体罰、セクハラ、不登校等について全学級の実態を共有し、取組や周知徹底を図る。 ③児童の自己効力感や自己有用感を育む取組を通して、自己肯定感の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案 ②児童と保護者を対象とした、いじめ・体罰・セクハラアンケートの実施や児童面談の実施 ③児童が活躍できる場や認められる場、自己指導能力を高める場の意図的設定及び効果的な評価の充実 ④学級内の課題や目標を共有し、PDCAサイクルを回しながら取組を進め、成功体験や達成感をもたせる。 ⑤縦割り全校遊び、学年遊び ⑥校則の見直し ⑦代表委員会、児童朝会 	<ul style="list-style-type: none"> ①6月、1月 ②学期1回、実態に応じて ③毎日・毎時間 ④月に1回 ⑤2回 ⑥年1回 ⑦月に1回 	<ul style="list-style-type: none"> ①Q-U2回目の一次支援の数値上昇(全学級で1回目以上) ②児童アンケート肯定回答上昇(7・1月) 「自分のことが好きですか。」

4. 課題解決に向けた重点取組を振り返って

【今年度の成果と次年度にむけた改善点】

- NRTの算数科の偏差値平均が全学級50を上回り、学校平均は57.4だった。
- 算数の単元末テストの思・判・表の学校全体の平均通過率は82.9%であった。学級平均が80%以上の目標は、5/6学年達成であった。
- 環境整備や学級集団の醸成を行って親和的な学級集団を育成し、1回目のQ-Uの一次支援の数値が17.3%向上し、と三次支援の児童も減った。
- 国語科の書くこと、算数科では図形領域に課題が見られた。そのため、学習の積み残しが無いよう、苦手な分野を分析し、取組を行う必要がある。

5. 次年度学力調査の目標値

学力定着分析 NRT 偏差値平均

		新2年	新3年	新4年	新5年	新6年	全体
国語	目標値	55	55.5	50	50	52	52.5
	偏差値平均	55	55.5	50	50	52	52.5
算数	目標値	56	56.5	60	61	53	57.3
	偏差値平均	56	56.5	60	61	53	57.3
理科	目標値	/	/	52	52.5	50	51.5
	偏差値平均	/	/	52	52.5	50	51.5
全体	目標値	55.5	56	55	55.5	52.5	53.8
	偏差値平均	55.5	56	55	55.5	52.5	53.8

全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数
目標値 (対県比)	74	73